

# 怡土支部

# 大権講演会

## に参加して

糸島市では7月を同和問題啓発強調月間と定めており、怡土支部においても例年街頭啓発や人権講演会を企画しています。

今年度は7月1日に津軽三味線奏者の「虎高」さんを迎えての講演を予定していましたが、講演前日から降り続いた記録的な大雨に見舞われ、やむを得ず延期となっていました。

8月27日に開催することができ、62名の方に参加いただき津軽三味線の演奏をまじえた講演を聞くことができました。

虎高「さんは、現在福岡在住の37才、大衆演劇の座長を父に持ち、幼少の頃から津軽三味線を習い覚え、津軽三味線の演奏家として活躍中の方です。

講演では、津軽三味線が貧困のなか、病で目が不自由になった「ごせ」と呼ばれる女性旅芸人の演奏によって知られるようになった

という歴史の話や「虎高」さんが幼少のころ親元を離れ、地方の劇団に預けられていた時の辛い修行や劇団に所属していたために短期間での転校を繰り返していたこと、はじめを受け自殺まで考えたなどの辛かった自身の経験が語られました。

「おやさい」の「お」はおもいやり、「や」はやさしさ、「ざ」は差別をしない、「い」は命を大切という意味で、私たちも人権を守るためにこの言葉を大切にしていかなければならないと大いに考えさせられました。



筑豊はかつて日本の代表的産炭地であり、日本の戦後の経済復興を支えたのが筑豊の炭鉱労働者であり、その陰には過酷な外国人労働者の犠牲があったことは知られています。

また、芦屋釜の精度の高い高度な技術を芦屋の鑄物師はその技術をどこで習得したのかを下記の日程で学んでまいります。

日程：11月7日（火）  
視察先：宮若市・芦屋方面

講演の後半では、虎高「さんによる迫力ある津軽三味線が演奏され、大変印象深い講演会となりました。



最後にアンケート結果の一部を紹介いたします。

## あとがき

私は「保護司」としての活動もおこなっています。

犯罪を犯してしまった人たちの更生の手助けをする仕事で、若気の至りで交通事故で反を繰り返して、挙句の果てに人身事故を起こしてしまつた人」や、真面目過ぎて優しい性格のため、付け込まれての違法薬物使用」などの犯罪を犯したためのお手伝いをしてきました。

多くの場合、学校や家庭での教育のあり様、職場環境、家庭環境、地域との関わり合いなど、日常生活において見逃してきた小さいこと、関係している、根本的な解決に繋がらないという現状があることを活動現場で叩きつけられています。

結論は、小中学生はやはり学校活動を通して基礎教育を行い、働く若い世代は職場や社会生活を通して昔よりかなり学べる機会が多くなり与えられていて、子どもとの意見交換の機会も学校教育活動を通して昔よりかなり広がってきています。

怡土支部長 伊東山秀水

# 怡土人権だより

発行：糸島市人権・同和教育推進協議会 怡土支部  
略称：市同協怡土支部

令和5年度  
第2号  
11月1日発行

## 人権映画祭

### 劇場版

## 荒野に希望の灯をともし

― 100の診療所より一本の用水路を ―



中村先生は、国内で病院勤務をされていた時にパキスタンの病院に赴任が決まりペシャワールでの医療活動を始められました。

しかし、2千年から続いていた干ばつにより先生の診療所が在るダラエヌール渓谷の上流すら水が枯れ、トウモロコシや麦の種まきまで出来なくなりました。

「企画ペシャワール会／製作 日本電波ニュース社 2022年」より提供受けました。

## 二支部交流に参加して

大門行政区推進委員

コロナも今年5月で2類から5類に移行され、今年も波多江支部との2支部交流会が、8月4日に無事開催され、活発な意見交換をすることができました。

それぞれの取組みについて報告がありました。

波多江支部・怡土支部、波多江小と前原東中の人権教育担当の先生から、それ

ぞれの取組みについて報告がありました。

波多江支部・怡土支部、波多江小と前原東中の人権教育担当の先生から、それ

それぞれの取組みについて報告がありました。

## 令和5年度怡土支部人権映画祭

開催日時 12月3日（日）  
14時00分開会

※コロナ感染防止のため、事前予約制（80名）で開催いたします。

怡土コミュニティセンターへ  
予約をお願いします。  
(092-322-7815)

ただでなくて、若い世代の教師に対する指導啓発も必要となつてきているため、様々なアイデアを出し合つて、良いと思われることは積極的に取り入れていく活動を展開するなど、大変苦勞しながら取り組んでおられることを知りました。

講演会や映画鑑賞等の活動を通して、今まで以上に呼びかけを行なって参加者を募り、より楽しく、活発な人権啓発活動に取り組む必要があると感じられる機会となりました。



皆が安心して過ごせる空間

前原東中学校 一年生

私はSNSで流されてき一つの動画が印象に残った。その動画は、ある一つの紙に対して多くの人で悪口を言う。するとその紙はどんどん傷ついていき、くしゃくしゃに丸まっていく。

私も二つのパターンで感じたことがある。

一つ目は、私が妹を傷つけてしまったことだ。

3月27日、妹の誕生日。私は妹が楽しめる最高の一日にしてあげようと思っていた。

だが、その紙は開いたが、完全に元のように戻って

だが、私の遊び半分で言ったつもり言葉が妹を傷つけていた。

この紙の心の状態を人間の心とおきかえる。

人は嫌なこと、あやまられても、完全にはなおらないということ。

言われたりされたりした時よりは良くなるかもしれないが、それをされた人は、いつまでも



私はテンションが上がって過ぎてか、妹に対して「A妹の名前）、こんなんで十一歳になれると？」と遊び半分で言った。

すると妹が本当に傷ついており、もう、誕生日なのになんでそんなこと言うの？」と少し悲しみながら怒ったように言った。

「Aねー、誕生日なのにお姉ちゃんに酷いこと言われたもん」と。私にはそれに対して、おっ、本当に傷ついてたんだな」と改めて感じた。

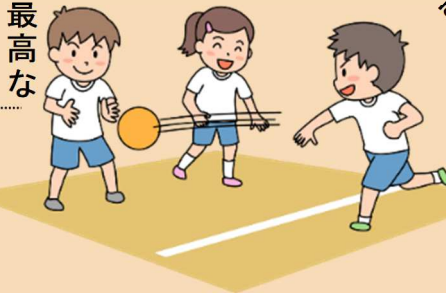
二つ目は、小学校の時、休み時間でクラスみんなと遊んでいる時にあった事だ。昼休みにレクでドッチボールをする事になった。

チーム分けは男の子対女の子だった。

「Aねー、誕生日なのにお姉ちゃんに酷いこと言われたもん」と。私にはそれに対して、おっ、本当に傷ついてたんだな」と改めて感じた。

二つ目は、小学校の時、休み時間でクラスみんなと遊んでいる時にあった事だ。昼休みにレクでドッチボールをする事になった。

チーム分けは男の子対女の子だった。



チームも決まったから始めようとした。すると、ある女の子の友達から「B私（の名前）は、男の子っぽいけん、男の子のチームで良いんやない？」と言われた。

その言葉が私の心にグサツと刺さった。私はその言葉に対してシヨックを受けすぎて、もうその日は遊びたくなかったから、教室へ戻った。

私がいけないことに気が付いた友達、私の所へ来てくれた。

その子は、私の大親友で、一番信頼できる子だった。

その子は、私に「どうしたの」と声をかけてくれた。私はその子に、「アがあったんだ」と言った。

それに対して大親友の子は、大丈夫だよ！私がいるから」と言ってくれた。

私はその言葉で安心して、学校は終わり、家に帰って寝る頃になり、私は寝室へ行った。



だが学校での出来事で、なかなかむれなかった。次の日は、寝不足のまま学校へ登校した。だが、なんだか教室に入りにくかった。そのまんま少し廊下に行くと、後ろから、「B、おはよう」という声があった。ふり返ると大親友だった。

昨日のことで教室入りにくいの？」と聞かれた。私は「うん...」と答えた。

すると、「一緒に行こうよ！安心して」と言ってくれたおかげで、教室に入れた。

すると走ってかけつけてきた子がいた。その子は昼休みに私に対して言ってしまった子だった。

その子は「おはよう」と、私も「おはよう」と返した。すると、その子は「昨日はごめんね。」

久しぶりに皆で遊ぶことができたから嬉しすぎて何も考えれていなかった...。あの時は本当に悪かったよ」と謝ってくれた。

私はまさか謝られるなんて思っていなかった。私はその子に「全然大丈夫だよ。でも今度からは言わないでね」と言って、その事を無事に解決できた。

だが今でも、心のどこかにその時のシヨックだった気持ちが残っていて、思い出すと、「ほあ」となり、落ち込む時がある。

私は、この二つの事を機に、軽々しく言ったつもり言葉でも、人を傷つけたりしてしまっただなと分かった。

また、そういう言葉は、自分が上がった時に特に言うてしまうから、より注意して、一つ一つの言葉を発していると思う。

逆に、私は、一つ一つの言葉で、周りの人を楽しませたり、喜ばせたりして、皆が安心して過ごせる空間をつくってほしいと思った。



怡土小学校人権標語 (5年生・6年生)
Illustration of children writing and sunflowers.

Grid of 40 boxes containing various phrases and their initials (e.g., 優しい心, 友のため, R・U; 心が軽く, なるのよね, A・A).